

院内がん登録で全国のがん診療連携拠点病院の診療状況、特徴を分析

- がん診療連携拠点病院院内がん登録 2009 年全国集計 報告書の発行について -

独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターがん統計研究部院内がん登録室

---

## 1. がん診療連携拠点病院院内がん登録 全国集計報告書 とは

---

- 国立がん研究センターが全国のがん診療連携拠点病院において実施されている院内がん登録のデータの提供を受け、
  - ① がん種、進行度、その治療の分布を把握し、国や都道府県のがん対策に役立てる、
  - ② 各施設が全国と比較した自施設のがん診療状況を把握し、がん診療の方向性等を検討する、ための基礎資料を還元することを目的とした報告書です。
- 本年度は2009年診断症例の提供を受けました。平成21年度の初年度の県別、昨年度の県別及び施設別に引き続き、3 回目の集計報告です。各施設の登録データの質が向上してきた結果、集計処理時間が短縮され、昨年度と比較して3ヶ月早く報告できました。

---

## 2. 本報告書から分かること

---

- ① 拠点病院は我が国のがん診療の大きな役割を担っています。

2008年と比較して、拠点指定病院の増加に伴い、集計対象施設が11施設(3%)増加して370施設に、登録数が約5.7万例(13%)増加して、集計対象は484,771例になりました。この数は、日本全体の概算の罹患数の63.6%(2008年と比較して5.3%増加)であり、我が国のがん診療において拠点病院が大きな役割を担っていることが分かります。
- ② 各都道府県の特性に応じたがん対策を考える必要があります。

性別、患者の診断時の住所別、年齢別、症例区分別、来院経路別、発見経緯別、部位別 の集計の結果、都道府県や施設によって、診療している対象に特性があることが分かりました。

例えば、男女比を都道府県別に見ると、全体では1.32で男性の方が多いですが、沖縄県では0.89で女性の方が多いことが分かりました。これは、沖縄県の男性の65歳以上人口割合が日本で最も低く、がん好発年齢の人口が少ないことが主な原因と考えられます。
- ③ 各拠点病院の特性を知り、各都道府県及び各病院のがん診療の方向性を検討する必要があります。

例1 20歳未満の登録数

20歳未満の登録数を施設別に見ると、登録が1例もない施設が81存在し、成人のがん診療病院と小児のがん診療病院は異なる可能性が示唆されました。20歳未満の登録数は全体で2,826例であり、最大診療している施設においても96例でした。

例2 病期の割合 初回治療前の病期は、治療方針を決定し、生存率にも影響するため、施設間の違いを明らかにしておく必要がありますが、I期の多い施設、IV期の多い施設など、違いがあることが分かりました。

---

## 3. 本報告の意義

---

本年度のがん対策推進基本計画の見直しを受けて、平成24年度は各都道府県においてがん対策推進計画の見直しを計る年です。がん診療の実態や質の評価指標として、本報告書及び各都道府県に還元する集計資料が、有効に活用されることが望まれます。

地域がん登録の精度が大きく向上！

全国人口の4割においてがん罹患を高い精度で把握

- 「全国がん罹患モニタリング集計 2007年 (MCIJ2007)」の発行について -

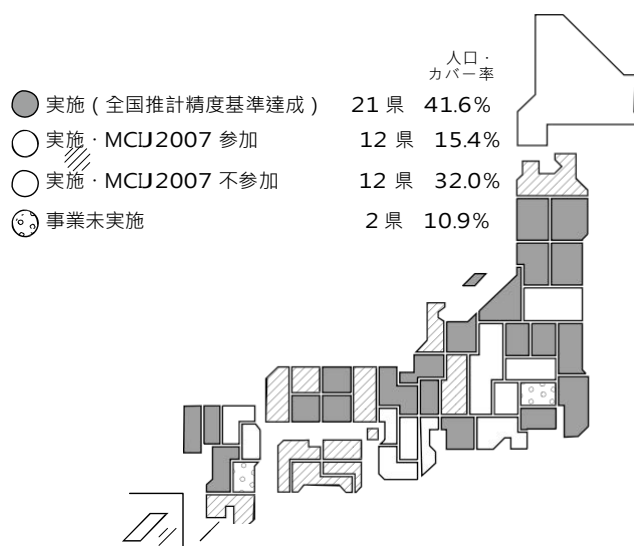
独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターがん統計研究部地域がん登録室

## 1. 全国がん罹患モニタリング集計とは

厚生労働省研究班事業で、地域がん登録事業実施道府県すべてにデータ提出を依頼し、精度基準を達成した府県のデータを用いて、全国のがん罹患推計を実施。2003年がん罹患症例の収集を皮切りに、今回は5回目、2007年罹患集計および全国値推計を実施しました。

## 2. 今回の集計・推計結果の特徴

罹患データを提出可能な地域がん登録 37道府県中、北海道、大阪府を除く 35 府県よりデータを収集しました。集計対象地域は、福島県は 2008 年罹患、山梨県は 2009 年罹患の参考データ提出のためを含めず、33 府県でした。



登録精度基準※を達成した 21 地域 岩手、宮城、秋田、山形、茨城、栃木、群馬、千葉、神奈川、新潟、富山、福井、愛知、滋賀、京都、鳥取、岡山、広島、佐賀、長崎、熊本 のデータを 全国推計に利用 (MCIJ2006 より 6 地域新規追加)。

高精度 21 地域は全国人口の 41.6% をカバー (MCIJ2006 より 8.9% 増加)。

※①「罹患患者中死亡情報のみで登録された患者」(DCO)の割合 < 25%、あるいは、「死亡情報で初めて把握された患者」(DCN)割合 < 30%、かつ、②「罹患数と人口動態統計によるがん死亡数との比」(IM比)  $\geq 1.5$  の両条件を満たす。

①2007年の全国がん罹患数推計値(全部位において上皮内がん、頭蓋内の良性腫瘍を含まない)は、男女計 70.4 万人、男 41.1 万人、女 29.3 万人。

②2007年の全国年齢調整罹患率推計値(人口 10 万対、1985 年日本人モデル人口で調整)は、男女計で 323.6、男 405.3、女 263.8。 部位別では、男で胃 78.9、大腸 63.4、肺 61.6、前立腺 43.5、肝臓 29.8、女で、乳房 67.1、大腸 35.9、胃 28.6、子宮 22.8、肺 21.1 の順でした。

## 3. 本報告の意義

数年来、地域がん登録の標準化が急速に進み、全国がん罹患モニタリング集計に参加する地域が増えるとともに、各地域のデータ精度が大きく向上しました。来年度は、いよいよ全 47 都道府県で地域がん登録事業が実施されます。近い将来にはがん対策に必要な、正確な罹患統計が全国的に整備されることでしょう。